

# 熊本県

(熊本市地域)

## IPM技術を核とした持続性の高い 野菜産地の育成(26年度)

【問い合わせ先】  
農林水産部農業技術課  
植物防疫・農薬監視班  
電話：096-333-2381

### 【1. 概要】

- ・施設野菜(ナス・ピーマン)において、地域指導者会議を組織し、産地に適合したIPM技術体系の確立と効率的な普及を推進
- ・地域版のマニュアルを作成し、各組織・地区で講習会、個別巡回指導等を実施
- ・IPM技術(天敵利用)導入戸数は35戸(前年比269%)

### 【2. 実践内容】

#### (1) 取り組みの背景、経緯

- ・当地域は、ナス科(トマト・ナス・ピーマン)、ウリ科(スイカ・メロン・キュウリ)等の施設栽培が盛ん
- ・微小害虫が媒介するウイルス病対策のため、殺虫剤が偏用されるようになり、次第に効果が低下。発病しないナスやピーマンでも害虫の被害が目立つようになった
- ・持続性のある生産活動を実現するため、IPM体系の確立と推進を平行して実施

#### (2) 普及拡大に向けたポイント、成功要因

- ・各生産組織・地区の共通課題であるとの認識を関係者で共有し、協力につなげた
- ・各地に展示ほを設置し、効果を確認しながら当地域に適合した技術を検討した
- ・地域版のIPMマニュアルを生産者向けと指導者向けに分けて作成した(図1)
- ・生産者への天敵導入資料配布、現地検討会・初心者勉強会を開催するとともに、指導員向けにも研修会を実施し、技術共有を図った(図2)
- ・個別の巡回指導や定点ほ場調査により問題点の把握と効果測定を行っている



図1. 作成した促成ナス  
IPMマニュアル



図2. 農家同士の意見交換  
(現地検討会)

### 【3. IPMの推進による効果、得られた経験】

- ・IPM技術(天敵利用)導入戸数は35戸(前年比269%)に増加
- ・殺虫剤使用の低減が実現できたことにより、導入を検討する生産者が増加。今後、更なる普及が期待できる

促成ナス殺虫剤散布実績

1筆当たり回数: 前年比30%、10a当たり経費: 前年比16%

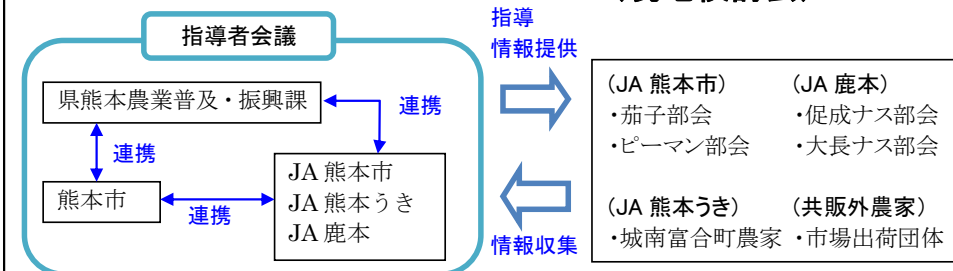


図3. 推進体制